

<表 2> 地図中心のノート作りの例

<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間使用する略地図を家庭学習として描いてくる。 ・授業の中で、教科書や地図帳を参照しながら地理的事象を調べ、確認していく。 <p>略地図</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のポイントをおさえる ・学習課題について、教科書や参考書をもとに調べ、発表し合う。 ・問題点をみんなで考えていく。
---	--

今までのノート作りは、地図と学習内容が密接につながっているとは言えず、したがって覚えにくく、単に暗記中心の地理に終わってしまう傾向になった。そこで<表 2>のようなノート作りを考えた。

② 「トレーシングペーパーによる地図の作成」
ア.クリップ、多色鉛筆、トレーシングペーパーを準備する。

イ. 地図帳にトレーシングペーパーをクリップで止め、輪郭をトレースする。

ウ. 教師自身のTPシートを参考にして、地図に入れる地理的事象を教科書、地図帳を参照してグループで話し合って選び出す。

エ. 作成は単元ごとにし、1枚目を自然事象、2枚目を農林、水産、鉱工業の事象を書き入れることにする。(グループの協力的学習を通して一人一人作成する)

このねらいは、自ら調べ考え、自らの手と頭を使い「なすことによって学ぶ」作業的学習にある。

4. 計画 (省略)

5. 概要と考察

(1) 研究の経過

① 検証までの準備

ア. 地図学習の指導

○ 作図、読図には個人差が大きいため、困難としている生徒には、昼休みや放課後を利用して個別指導を図ったり、グループの中で協力的学習を積極的におし進める。

○ 一斉指導において、縮尺の指導を十分に行う長さ、大きさ、広さを相互の関係を考えて表現させる。

○ 反復練習によって作図能力の定着を図っていく。

イ. 作業的学習の指導

⑦ 地図作成の条件

○ なるのために作るのか。

○ 作成のきまりが守られているか。

○ 読みとりやすいように創意、工夫されているか。

○ 地図を正確に見、丁寧に作成しているか。

④ 生き生きと作り出す条件

○ 問題の動機づけや調査活動について十分に話し合いさせ共通理解をはかる。

○ 地図作りの条件整備を整え、適宜助言する。

○ 小グループの学習形態で、協力的学習の進み方をとる。

ウ. 作業的学習の指導過程——地図中心のノート作り——

⑦ 予習的な作業学習として

○ 略地図の描き方の例にならってノートに描いてくる。

○ 学習課題に即した内容について教科書を3回精読し、ポイントをノートにまとめてくる。

④ 本時の流れとして

○ 地図帳と教科書をよく読み、地理的事象を描出して自作の略地図に書き込む。

○ 授業での学習内容を照合し、ノートに加除修正して略図に着色する。

⑦ 学習の整理・発展として

○ 自作の略地図や学習した内容についてグループで話し合って確認する。

○ 本時の学習内容をまとめ、次時の学習課題を設定する。

エ. 作業的学習の指導過程——トレーシングペーパーによる地図の作成——

⑦ 作業的学習の計画

○ 事前指導、学習会

・ 地図の作り方、事象のおさえ方

・ グループ活動のあり方

④ 作業の時間は、教科書単元に位置づけられている「自由研究」を主に活用する。

⑦ 作品は作成に個人差が大きいため提出期限を一週間おき、放課後なども利用する。

⑤ 地図作業がぬり絵にならないように地理的事象を頭に浮かべ「なぜ、そこにあるのか」について考えさせ、「他地域とのかかわりあいはどうか」などについてイメージ化させながら作成するように指導する。

④ 着色は裏から塗り、表に文字や記号が鮮明に